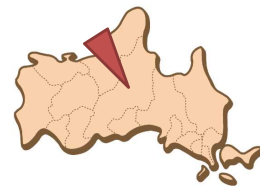


事業名：やまぐち中山間地域元気創出応援事業
地域協議会名：農業組合法人 神友会
活動期間(予定)：平成26年度～平成28年度

発表者：山口大学教育学部教科教育・技術選修

地域の現状と課題

- **活動地域**： 山口市阿東町
- **地域の概況**
 大学生と連携し地域資源の再発見や情報発信を図り、都市住民との交流と集落の活性化につなげる。



- **地域の課題およびニーズ**
 - 1 大学生の参加による農業体験活動を実施し、集落の良さを知り、発信すること。
 - 2 集落の特産品(わさび漬け)の加工品づくり及び加工品販売等を通じた誘致活動

取組の概要

到達目標

大学生と連携し地域資源の再発見や情報発信を図り、都市住民との交流、集落の活性化につなげる。

地域協議会の活動内容(予定)

平成26年度
 農業体験及び、「ヤマシャクヤク」開花時に訪れる多数の登山者向けに十種ヶ峰登山道の案内看板作成。

平成27年度
 農業体験及び加工品づくり、十種ヶ峰登山道の案内看板設置。元気創出事業、わさび生産地の先進地視察(岩国市錦町)。

平成28年度
 農業体験、地域資源等年住民への情報発信。子どもたちを招待したイベントの企画。

大学等の支援内容(予定)

技術教育の技術を生かした登山道案内看板の製作。

登山道案内看板の設置。わさびの加工品製作のための先進地の視察。

小学生を対象にした農業体験及び神角アピールのためのイベント

活動状況①



十種ヶ峰登山道の案内看板作成及び設置。
 神角地区の観光資源である十種ヶ峰を観光資源として生かすために、登山道の安全と案内の意味を込め、看板を作成、登山道入り口に設置した。

観光資源のヤマシャクヤク(右)
 このヤマシャクヤクをひと目見るためにGWには多くの人々が訪れる。
 合わせてヤマシャク祭りも開催される。



活動状況②



通年の活動である、教育学部
大学生の農作業体験。

3月後半 粃撒き
5月前半 田植え
9月中旬から下旬 稲刈り

神角の良さを発信していくため
に、来年度、子どもたちを招待す
るイベントを企画する。

農作業体験が初めての大学生
も多い。イベントを運営する立場
にもなるため安全指導なども丁
寧に行われた。



活動状況③

神角ではわさびが自生する。そのわさびを管理
し、神角の特産としてアピールしていくため、わさ
び栽培とわさびの加工品作りを学びに、岩国市錦
町へ視察に。



取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
神角という場所を大学生が知り観光資源を生かそ
うと看板を作ったり、農作業体験を通して神角の良
さに触れ、来年度の神角への子どもたちの招待や
情報発信に生かすことができる取り組みであった。
- 残された課題や今後の取組
来年度は神角に子どもたちを招待し、農業体験や
神角の良さを感じてもらうことができるイベントを企
画する。イベント運営のため、さらに研修や体験を
重ね、準備を重ねる必要がある。

活動参加者

地域での受入組織

農業組合法人 神友会

人数20名

・農業組合法人 神友会 代表

鶴岡常志

今年度は、4月初旬に十種ヶ峰登山道案内看
板の設置を行った。5月の連休中はヤマシヤクヤ
クの花を見ようとする多くの登山者が訪れ看板の
前で登山ルートの確認をする人、記念写真を撮る
人等多く見受けられた。そして春の田植え作業、
秋の稲刈り作業には地元テレビ局、新聞社等の
取材があり神友会の存在を多くの人々に知らせ
ることができた。農作業は学生にとって貴重な体
験であったと思われ農業に対する興味を持ってほ
しい。

来年度は5月連休の登山者が多く訪れる時期に
地元産品販売等において、学生の意見を取り入
れ販売促進や、誘致に力を入れたい。夏休みには
地区外の親子の参加を求め、田舎暮らしを体
験、山歩き等の催しを新たに実施したい。そんな
活動の中で、神角の良さを発信するとともに、里
山を知り、農業を知る、機会を充実させていき
たい。

支援大学等

山口大学教育学部技術教育

人数15名

・山口大学教育学部技術教育選修4年

尾山皓一

やまぐち中山間地域元気創出応援事業に携わり、
一番に思うのは、山口県の中山間地域は日本の魅
力に溢れたところであるということだ。畑があり、川が
あり、人間の手が加わった森があり、里山と呼べる場
所の魅力を存分に感じることができた。神角に行き、
農業体験を重ね、神友会の方々と大学生との交流を
通して、神角という空間のあたたかさ、心地よさを感じ、
いつまでもあの空気を吸っていたいと思うほどで
あった。やまぐち中山間地域元気創出応援事業は来
年度、3年計画の最後の年を迎える。これまでの経
験や準備をいかし、里山に触れる経験の少ない子ど
もたちを招き、農業体験や、山歩き、散策、おいしい
地元料理を通して、神角の魅力を味わい、中山間地
域の良さを感じてもらえるイベントを開催する。神角
の良さを発信する良い機会である。少子高齢化、過
疎化が進む地域に出向き、活動することにより、里山
に触れ、農業従事者の方々と交流し、日本の農林水
産業を担う子どもを育てたい。

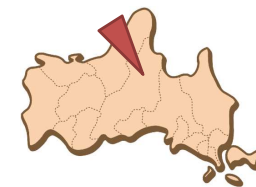
事業名:ICTを活用した高齢者の見守りサービスと地域スーパーの運営改善に向けた取り組み

地域協議会名:NPO法人ほほえみの郷トイトイ
活動期間(予定):平成26年度～平成28年度

発表者:山口大学 地福協力隊

地域の現状と課題

- 活動地域: 山口市 阿東・地福地区
- 地域の概況



山口市阿東地域にある5地区の内のひとつで、人口は1,449人、高齢化率は44.1%で少子高齢化が進んでいる。地区内にあったスーパーが撤退し、生活環境が悪化していることから、住民が支え合い、生きがいを持って暮らせる地域づくりが必要となっている

- 地域の課題およびニーズ
 - ①安心して暮らせる生活条件の確保
(買い物拠点の整備、交流拠点の整備、地域内交通の整備)
 - ②誇りを持てる地域づくり
(地域資源・人材の活用、支えあいの仕組みづくり)

取組の概要

到達目標

ICTを活用した地域の課題解決及び高齢者支援の仕組みづくりのための調査研究と地域ビジネス構築による地域経済の活性化のため、拠点となる地域スーパーの運営改善と高齢者支援サービスの企画開発を目的とする

地域協議会の活動内容(予定)

平成26年度
ICTを活用した高齢者見守りサービスと地域スーパーの運営改善に向けた取り組み
・利用者に関するアンケート調査
・困りごとの調査



大学等の支援内容(予定)

・地域内調査(地域スーパー・移動販売の利用に関するアンケート)
・アンケート調査の集計・分析・報告会

平成27年度
ICTを活用した調査分析による地域拠点の経営改善
・マッピングによるトイトイの移動販売事業の再検討
・移動販売のルート改善(効率化、売上増)
・未利用者の新規開拓(顧客増)
ICTを活用した高齢者支援の仕組みづくり
・見守りサービスの拡充
・コンシェルジュサービスの拡充



・移動販売ルートの検討(移動販売の要望に関するアンケート調査)
・移動販売用ちらしの作成

平成28年度
情報拠点の構築による地域活性化
・地域スーパーに地域の情報が集まる仕組みづくり
・交流スペースを活用した付加的サービスの可能性と検証



・SNSを利用した情報収集・情報発信方法の検討と実践
・交流スペースの活用策

活動状況①

「ほほえみの郷トイトイ」店舗内に設置された交流スペースを利用した新ルート開拓の検討



活動状況②

生雲地区・蔵目喜地区におけるアンケート(聞き取り)調査



取組の成果等

● 地域の課題に対してどのような効果があったか

- ・アンケート調査・聞き取り調査を通じて、同じ中山間地域にあっても買い物に対するニーズは居住環境によって異なることがわかった。
今後の「地域スパートイトイ」の運営改善や移動販売トイトイ号のルート開発において参考となる調査であった(現時点で需要のない地域が判明したことで、より要望の強い他の集落に行くための判断材料となった)。
- ・高齢者にもわかりやすく、手元に置いておけるような(カレンダー様式の)ちらしを作成することで、移動販売の利用のしやすさや新規の利用者に繋がること期待される。

● 残された課題や今後の取組

- ・移動販売の運行状況や販促品の情報を発信していく方法の検討(新規顧客の獲得、売上の増加)
- ・既存ルート上において移動販売の要望が強い集落を加えた場合のルート所要時間の検討
- ・店舗運営、移動販売、見守りサービスに関連する情報がどのようにすれば収集可能なか検討し、情報を収集する方法を確立するとともに、情報を発信していく機能を強化

活動状況③

移動販売ちらしの作成・検討会



活動参加者

地域での受入組織

NPO法人ほほえみの郷トイトイ 人数4名ほか

- ・ 理事長 長安 正巳
- ・ 事務局長 高田 新一郎
- ・ 地域おこし協力隊 平山 徹
- ・ 中小企業診断士 松本 宏之(元地域おこし協力隊)ほか多数

高齢者は生活がパターン化しているので、それを変えるのは非常に難しい面があるということを感じました。

情報収集のための調査でしたが、住民の方々と話をして、アンケート以外の話も聞くこともできました。実際に現地に行くことで多くの事を知れました。

支援大学等

山口大学経済学部 人数22名

- ・ 4年 牧野 篤士
- ・ 3年 植田 悠太
- ・ 3年 古閑 大輔
- ・ 3年 須田 恵司
- ・ 3年 中山 有希
- ・ 3年 投野 杏奈
- ・ 3年 福島 潤也
- ・ 3年 古谷 佳那恵
- ・ 3年 矢野 謙志郎
- ・ 3年 早田 匡志
- ・ 3年 渡辺 菜月
- ・ 2年 大田 卓矢
- ・ 2年 嘉口 実優
- ・ 2年 河村 泰敬
- ・ 2年 雲井 夕喜
- ・ 2年 佐伯 拓哉
- ・ 2年 中山 友莉菜
- ・ 2年 西 由莉絵
- ・ 2年 牧元 優弥
- ・ 2年 松本 諒
- ・ 2年 吉永 楓
- ・ 教員 齋藤 英智

空き家や過疎化を実際に目の当たりにしました。一人暮らしの方が多いことがわかり、交流の機会などを設けると良いと思いました。

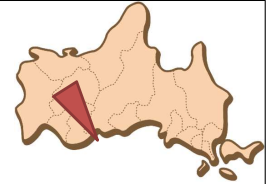
ちらし作成をして、高齢者の方が見やすく、利用したくなるような工夫を考えるのが難しかったです。

事業名:すぜんじ魅力発見プロジェクト
地域協議会名: 鑄銭司ふるさとゲンキ会
活動期間(予定): 平成27年度～平成29年度

発表者: 山口県立大学 だいす

地域の現状と課題

- 活動地域: 山口市鑄銭司
- 地域の概況



鑄銭司地域は、その地名が示すとおり、平安時代に貨幣を造る役所があった地である。

緑豊かな自然と田園風景が広がる一方、国道2号線が地区を貫き、山陽自動車道山口南インターチェンジが設けられたことから、それに伴い、鑄銭司団地が整備され、複数の運送会社等の営業拠点が置かれている。また、山陽新幹線、新山口駅にも非常に近いことから、市内有数の広域交通の拠点となっている。

- 地域の課題およびニーズ

明治維新の先覚者、大村益次郎が亡くなられ、平成30年には150年の節目の年を迎える。鑄銭司地域では、大村益次郎の偉大な功績を広く伝えるようと、地域総出で記念事業に取り組むこととしている。

取組の概要

到達目標

鑄銭司への愛着心を高めるために、大村益次郎のイメージアップを図る

地域協議会の活動内容(予定)

「大村益次郎」の生誕地として、その功績や人柄を地区内外に伝えとともに、その知名度を利用して鑄銭司地区のPRをおこなっていく。

- ふるさとまつりで豆腐を使ったオリジナル料理の披露
- ゆかりの地マップを使ったイベントの開催(1回目)
- 大村益次郎の功績を再検証
- ホームページによる情報発信の検討

大学等の支援内容(予定)

豆腐レシピと新解釈の提案をする交流会を、2月11日に実施する。

未定

未定

- ゆかりの地マップを使ったイベントの開催(2回目)
- 大村益次郎の功績をまとめた小冊子の作成
- ホームページの作成

活動状況①

実地調査と講演会

鑄銭司地域を知るために地区内を複数回にわたって見学した。



そこで、大村益次郎が地域にとって欠かすことのできない存在だと感じ、益次郎に関する講演会にも足を運んだ。

(昨年11月21日に、中央図書館まつりで開催された「講演会 大村益次郎と豆腐料理」などに参加)

講演会では、大村益次郎が頭がよく偏屈な人であったことや、豆腐好きだったことが多く話されていた。

活動状況②

益次郎が愛した明治時代の豆腐を再現した「真砂の豆腐」を使用して幅広い世代に愛される豆腐料理を考案する(調理例)



●豆腐ハンバーグ
鶏ひき肉を使用し、ヘルシーに仕上げている。豆腐を使用しているため、鶏特有のパスツキが抑えられている。食感をよくするためレンコンを使用している。



●どんどろけ飯
豆腐と家庭にある野菜を使用した炊き込みご飯。タンパク質や食物繊維など様々な栄養素を摂取できる。

取組の成果等(想定)

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
大村益次郎の功績を再確認するとともに、その人物像を新たな視点から再評価することにより、鑄銭司在住の方々が同地域に対する愛着をより深めるきっかけになると想定される。
- 残された課題や今後の取組
 - 鑄銭司地域や益次郎に関する情報を網羅した冊子や、まち歩きコースマップの作成
 - 長沢ガーデン(レストハウス)への豆腐料理の提案
 - SNS(facebookなど)を用いて、益次郎をはじめとする地域資源のPRを行う

活動状況③

益次郎について学んだ大学生の視点から、今まで語り継がれてきた定説をもとに益次郎の人物像について新たな解釈を見出す

例)益次郎は「無愛想な人であった」と言われている
→実は、誰に対しても思いやりや孝行の心を持っている人だった(帰省の際、奥さんにかんざしなどのお土産を買って帰っていたというエピソードなどが存在)
→長州藩を出て、宇和島藩に出仕した益次郎のいきさつをうまくとめるために「無愛想」が押し出された?

十 鑄銭司や益次郎に、さらに親しみを持ってもらうため
すぐろくを用いたワークショップも同時に行う

活動参加者

地域での受入組織

鑄銭司自治会 人数 7名

- 会長 岡本 敏
- 副会長 野村 幹男
- 副会長 掛波 冬男
- 副会長 徳永 勝治
- 事務局 上杉 真志
- 事務局 伊藤 みどり
- 事務局 持光 由喜江

・若い人たちが活動してくれ、地域が元気になった。

益次郎先生の活躍をわかり易く説明され、一段と親しみがもてました。

益次郎の好きだった豆腐が鑄銭司の特産品になることを期待しています。

支援大学等

山口県立大学 だいす 人数 8名

- 2年 新造里奈子
- 3年 大田舞美矢
- 2年 糸賀悠平
- 2年 遠藤結花
- 2年 河島舞
- 2年 澤井帆希
- 2年 堤仁美
- 2年 原田千尋

地域の課題を把握したうえで、大学生が何をできるか考えるのは大変だったが、大きなやりがいを感じることができた。

はじめての地域と協力は活動で、分からないことが多かったが、さまざまな人と協力することでいいものができたと思う。

事業名：魅せます！明木プロジェクト
地域協議会名：彦六・又十郎伝保存会
活動期間：平成25年度～平成27年度

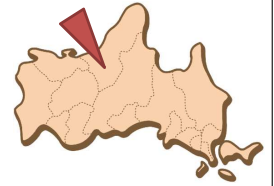
発表者：山口県立大学「ニチゲツモク企画」

地域の現状と課題

• **活動地域：萩市明木地区**

• **地域の概況**

萩往還の宿駅としての歴史を持ち、
現在もハイカーの休憩ポイントの1つとなっている。



• **地域の課題およびニーズ**

【課題】

- ✓ 地域の文化資源を活かし、地域内外の交流を促すイベント等を盛んにする
- ✓ 萩往還に行く人たちの休憩ポイントとして充実させ、明木での滞在時間を延ばす

【ニーズ】

- ✓ 地域に伝わる「彦六・又十郎伝説」に基づく「思いやり」の心を後世に伝えていく
- ✓ 萩市中心部とは異なる明木の魅力をより一層見出す

取組の概要

到達目標

来訪者が明木に足を運び、滞在するための仕組みづくり

地域協議会の活動内容(予定)

(活動準備期間)

大学等の支援内容(予定)

(活動準備期間)

平成25年度

平成26年度

平成27年度

- ① 彦六・又十郎伝説の普及活動
- ② 明木の魅力向上活動
- ③ 明木農業文化祭の企画実施

- ① 思いやりの明木ツアーの実施
- ② 縁台の提案・設置
- ③ 思いやりの言葉プロジェクトの企画・実施
- その他：
 - ・ 農家体験ツアーの提案・モニターツアー実施
 - ・ 撮影スポットの提案・試行

- ① 彦六・又十郎伝説の普及活動
- ② 明木の魅力向上活動
- ③ 明木農業文化祭の企画実施

- ① 思いやりの明木ツアーで使用するパンフレットの英訳版作成
- ② 思いやりの看板プロジェクトの企画・実施
- ③ 思いやりの言葉プロジェクト発展型の企画・実施

活動状況①



思いやりの明木ツアープロジェクト

明木のテーマである「思いやり」をはじめ、
明木の歴史豊かな自然を感じられる徒歩ツアーの企画

平成26年度：参加者6名

- パンフレットを作成。
- 一般の方々向けのモニターツアーを実施。

平成27年度：参加者約80名

- 世界スカウトジャンボリーに向けたパンフレットの英訳文を作成。
- 明木ツアーを海外の方に散策してもらった。(留学生が通訳補助として参加)



平成27年度
世界スカウトジャンボリー

成果・感想

- 彦六・又十郎伝説や石州瓦といった明木ならではのお話に関心を示してもらえた。
- 海外の方は、街並みより、日本固有文化に興味を持たれていた。



実際のツアー地図(一部)

活動状況②



思いやりはどこにでもプロジェクト

明木のテーマである「思いやり」を来訪者に感じてもらうための企画

平成26年度

- 明木神社前に縁台を設置し、訪れた方にお茶をおもてなしする「思いやりカフェ」を実施。

平成27年度

- 萩往還沿いに看板を設置し、ハイカーを癒す。
- 一緒に写真を撮ることで、「思いやり」を自宅に持ち帰ることができる。



平成26年度 「これも何かの縁台」企画



平成27年度 「彦さん又さん看板」企画

成果・感想

- 来訪者同士が縁台に隣り合って座ることで、自然と交流していた。
- 休憩所の目印として活用されている。
- 明木のシンボルができた。



活動状況③



思いやりの言葉プロジェクト

明木のテーマである「思いやり」を目に見える形にするための企画

平成26年度

- 「思いやりカード」に思いやりの言葉を書き、自分のカードと置いてあるカードを交換するイベントを実施。

平成27年度

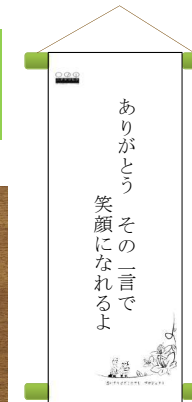
- 明木地区農業文化祭にて、「思いやりカード」記入者に「思いやりの花」を贈呈。
- 昨年・今年と集めた「思いやりカード」から、30枚選抜し、「思いやり暖簾」を作成。



思いやりカード



思いやりの花



思いやり暖簾

成果・感想

- 萩往還沿いの家屋・店舗に「思いやり暖簾」を作成数全て飾っていただいた。
- 「思いやり」とは何かを改めて考えてもらうきっかけとなった。



取組の成果等

● 地域の課題に対してどのような効果があったか

- 彦六・又十郎伝説を基にした、「思いやり」についての活動を様々なイベントで行ったことで、明木地区の方に知っていただけた。
- 明木地区に滞在する時間を延ばす仕組み作りができた。



● 残された課題や今後の取組

- 明木地区外への発信をより工夫していく
- まだまだ地域の方だけでは、facebookなどメディアの取り扱いが難しいため、今後も大学生と連携して取り組んでいきたい。



活動参加者

地域での受入組織

彦六・又十郎伝保存会
萩市旭総合事務所地域振興部門

人数24名

- 青木勇夫
- 石津明男
- 内村幹雄
- 岡村善武
- 片岡恵
- 神崎敏子
- 児玉勝利
- 斉藤敏和
- 瀧口治昭
- 瀧口吉敬
- 田中進
- 田中博司
- 土山康夫
- 長谷秋恵
- 中村敬一
- 野上哲正
- 野村謙司
- 林壯助
- 平田美代子
- 福本久志
- 溝部吉継
- 守永和子
- 矢田征男
- 山崎光一

「魅せます！明木プロジェクト」は、学生諸君が、みずみずしく発想豊かな感性で明木の財産である「萩往還」と彦六・又十郎伝説を軸に、明木地区への誘客企画のPDCAです。共に活動していく中、「彦六・又十郎」が明木の里人を思いやったのは400年前、今回改めて、ニチゲツモク企画の皆さんから明木の里や里人への「平成の思いやり」をいただきました。

支援大学等

山口県立大学

人数13名

文化創造学科3学年 青笹実香
今後も継続させるということを考えながら企画・実行することが、とても苦労しました。

- 文化創造学科3学年 大田舞美矢
- 文化創造学科3学年 田中千秋
- 文化創造学科3学年 中村祐実子
- 文化創造学科3学年 村田京香

実際に地域に出て活動することは、大学の座学とは全くの別物なので、今回のプロジェクトに参加できて良い経験になりました。

- 文化創造学科4学年 足達剛志
- 文化創造学科4学年 木村萌恵
- 文化創造学科4学年 島田玲実
- 文化創造学科4学年 平橋祐佳梨
- 文化創造学科4学年 水谷遥
- 文化創造学科4学年 宮崎紋樺
- 国際文化学研究所修士1年 陳鶴丹
- 指導教員 斉藤理(国際文化学部 准教授)

事業名：「福川の夢プロジェクト」
地域協議会名：福栄コミュニティ協議会
活動期間(予定)：平成27年度～平成29年度

発表者：至誠館大学

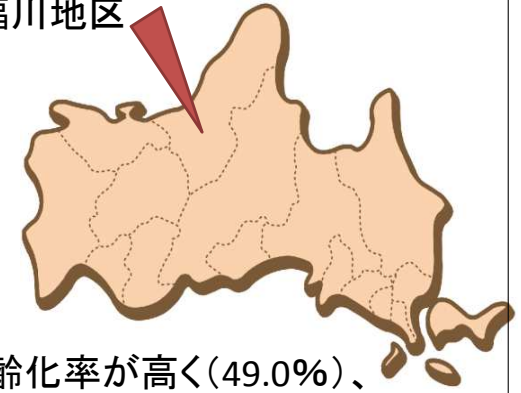
地域の現状と課題

・活動地域：萩市福栄地域福川地区

・地域の概況

平成17年に萩市他5町村
と合併し、萩市となる。

面積98.30km²、人口1,914人
(平成28年1月1日現在)



・地域の課題およびニーズ

旧郡部の中では2番目に高齢化率が高く(49.0%)、
人口減少が年々進行。そのため、地域住民自治活動組織
である福栄コミュニティ協議会では、地域の活性化をどう進
めていくかが大きな課題である。

取組の概要

到達目標

「福川地区夢プラン(以下、夢プラン)」の策定と、地域活性化につながる具体的な活動の
提案及び実施の支援

地域協議会の活動内容(予定)

平成二七年度
住民の活動計画である「夢プラン」の策定



大学等の支援内容(予定)

「夢プラン」作成に向けた住民への
アンケート調査の実施



平成二八年度
「夢プラン」の周知と住民への協力要請、
大学等との連携による「夢プラン」の実施



平成二九年度
大学等との連携による「夢プラン」の実施
および
住民に対するモニタリングの実施と公表

「夢プラン」の実施やモニタリング
および公表への支援と協力

活動状況①

■ 11/12 * 福川保育園保護者対象アンケートの説明

■ 12/ 5 * 地域住民対象アンケート(健康福祉まつり)



* 声かけ
* ふれあい

活動状況②

12/10 * 福川地区の現地調査

* 道の駅ハピネスふくえ



* 平蔵台《る～らる雲海》



話し合う

地域を知る

* 願行寺《立木薬師如来像》

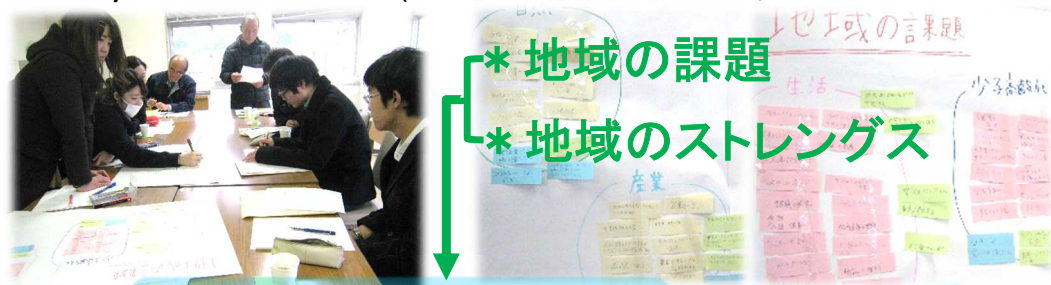


* 世界遺産《大板山たたら製鉄遺跡》



活動状況③

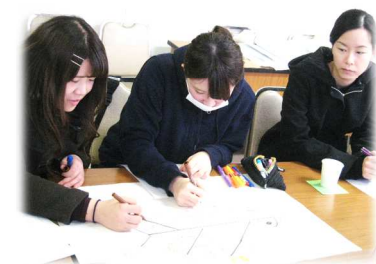
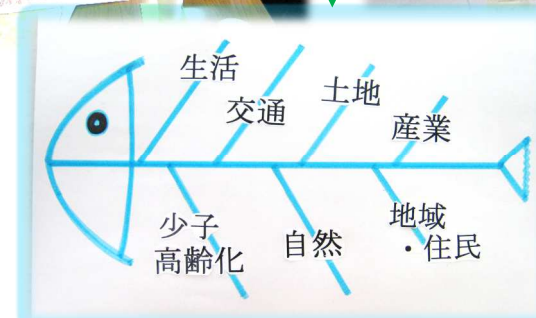
1/21 * 合同会議(アンケート調査とりまとめ)



* 地域の課題

* 地域のストレングス

7つの柱



取組の成果等

地域の課題に対してどのような効果があったか

- ・地域の課題を明確化し「夢プラン」完成
- ・地域の魅力を情報発信し活性化に向けた試みを展開
 - 世界遺産「大板山たたら製鉄遺跡」の情報
 - 住民がこれまで続けてきたものや大切にしているものを生かした情報

残された課題や今後の取組

- ・高齢者が主体の地域活動
 - …高齢者の負担軽減
- ・若い世代の力をどう取り込むか
 - …日常生活に負担にならない配慮

* 夢プランに対する周知と協力を
地域住民へしっかりと伝えることが必要

活動参加者

地域での受入組織

福栄コミュニティ協議会

人数 3名

支援大学等

至誠館大学

人数 8名

住みやすい地域づくりをめざして、プランを策定し、プロジェクトチームの中で、地域の人と具体的な計画を進めていきたい

・誰が ・いつ ・どのように

* 会長：鈴木孝彦

福川の夢プラン

- ・若者の感性に期待 (地域外からの視点で意見や新しい発想)
- ・福祉分野の住民組織と連携
- ・後の2年間で、実践につなげていきたい

* 事務局：藤野 昇

- ・地域のみさんがひとりでも多く参加出来るような活動にしたい
- ・若い力に期待

* 事務局：
篠原初枝

みなさんが福栄のことが大好きで、もっと活性化してほしいという思いが伝わってきた。地域福祉活動計画や小地域福祉活動を講義で学んだが、実際に考えて進めていこうとすることがこんなに大変なことだとは思わなかった。とてもいい勉強になった。

福栄には外部の人が気づかない素晴らしいものがたくさんある。そういったものをアピールして、高齢者だけでなく若者も増えて活性化できる地域になってほしい。また、若者を呼び込めるアイデアを提案して、一緒に活性化を支えたいと思う。

* 3年 男 孝幸、浦田 由香、金子 里緒、竹田 周平、田坂 亮太、濱野 未夢、林 知茂

住民懇談会やアンケート結果をみると「活性化してもらいたい」等の声が多い。自分以外の誰かがやってくれるのを待っているようにも思える。自分たちが行動に移すという意識がなければ地域は変わらない。

そのためにも、壮大な夢ではなく身近な夢を具体的に提案できるプランを考え、住民のみさんと共に努力する道を歩みたい。

* 教員 横山 順一

事業名：広島カープ由宇練習場と由宇トマトを活用した地域活性化事業

地域協議会名：NPO法人ゆうまーる

活動期間：平成26年度～平成28年度

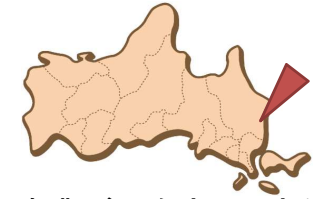
広島国際学院大学・「となりのトマト・由宇」PJ

地域の現状と課題

• 活動地域：岩国市由宇町

• 地域の概況

岩国市由宇地域は山口県東部に位置し、瀬戸内海に臨む温暖な地域で、江戸時代は廻船業、近代になってからは繊維工業、農業、漁業が町を支えてきたが、近年は岩国、柳井地域のベッドタウン化している。



• 地域の課題およびニーズ

高齢化の進展に伴い一人暮らし高齢者が増加し、耕作放棄地の増大や小中学校の廃校等が問題視される等、地域の活力が急速に衰えている。

→地域のニーズ：「由宇とまと」の6次産業化を通じて、地域経済が循環できる仕組みを作り、新たな雇用を生み出すことで活力を高めたい。

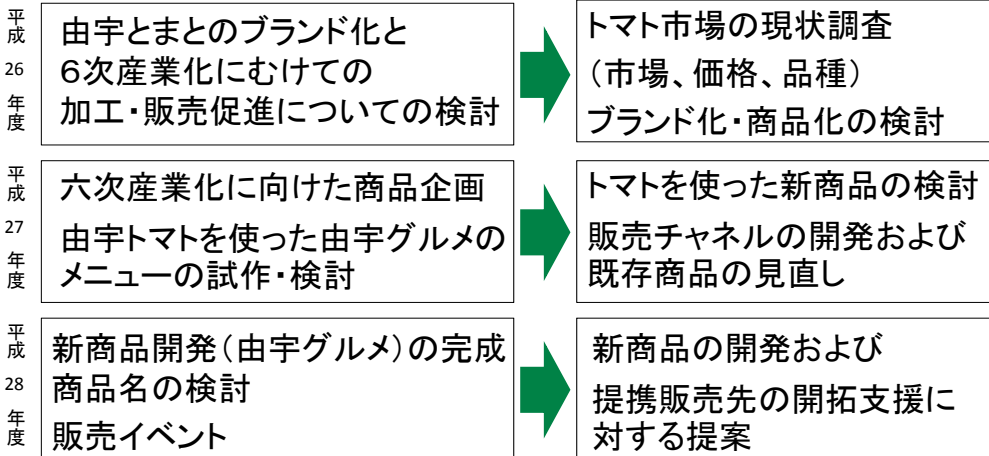
取組の概要

到達目標

「由宇とまと」というブランドを使って、地域経済が循環できる仕組みをつくり、地域をより広く知ってもらうとともに地域の活力を上げていくこと。

地域協議会の活動内容(予定)

大学等の支援内容(予定)



活動状況①

トマトを使った新商品の提案

- トマトを使った新商品について、アイデアを持ち寄り提案を行った。
 - 皆で持ち寄ったアイデアをもとに、どのような場所で、どのような価格帯で売れるか等について協議した。
- ↓
- 試作品を持ち寄り、ゼミで試食会を行い、商品の改善点等について協議をおこなった。

活動状況②

学生が提案し、「ゆうまーる」が試作した 新商品の試食会



活動状況③

由宇球場で販売するカープグッズも考案



取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
由宇とまを使った新商品の案を出し、実際に試作した。



新商品「新由宇ぐるめ」が決定。

- 残された課題や今後の取組
新商品を試作したが、改善する点もある。
売れ筋、価格帯などの調査に基づき、試作を繰り返し、完成度を高める。

活動参加者

地域での受入組織

NPO法人 ゆうまーる

人数2名

- 理事長 瀧山 進
- 理事 出雲 忠

支援大学等

広島国際学院大学

人数8名

- 3年生 佐藤 遼太郎
- 3年生 水間 正英
- 3年生 新中 沙友里
- 3年生 奥原 零理
- 3年生 斉藤 清華
- 3年生 李 昀奇
- 3年生 邵 麗
- 3年生 陳 雲雅
- 教授 栗原 理
- 准教授 竹元 雅彦



**事業名：油谷棚田景観創生と
ブランディング事業に係る
コ・クリエーション**
地域協議会名：宇津賀地区まちづくり協議会
活動期間：平成27年度～平成29年度

発表者：山口県立大学企画デザイン研究室

地域の現状と課題

- 活動地域：長門市油谷宇津賀地区
- 地域の概況：
長門市油谷宇津賀地区には、棚田百選に選ばれている海に面した美しい景観をもつ東後畑の棚田がある。



- 地域の課題およびニーズ
最近では「元乃隅稻成神社」が注目されており、多くの観光客が訪れているが、少子・高齢化が進んでおり、棚田における休耕田が増えている。棚田の景観を保つためには、棚田景観創生が期待されている。

取組の概要

到達目標

産公学共同で、休耕田を活用した、地域内外から若者や家族を集めて復活させていくためのイベント実施やブランディングに向けた提案の試行。

地域協議会の活動内容(予定)

大学等の支援内容(予定)

平成27年度

東後畑の景観資源調査。東後畑の棚田で個性的にアピールできる性質を明らかにする。シンポジウムを開催し、棚田再生・活用のアイデアを提案する。農業文化の歴史を調査する。

- ①景観資源調査。
- ②農業文化の歴史調査。
- ③収穫祭及びシンポジウムの開催。

平成28年度

調査をもとに具体的方法を産学で試行する。田植、稲刈りなどの農作業と地域で行われてきた祭等の農業文化を視覚化し伝達する。棚田再生・活用について、内外の市民が共同で実施する計画や、他の棚田との連携の手法を考え提案する。

- ①調査をもとに棚田再生・活用について共同で実施できる活動計画を試行する。
- ②祭事の再生、農業文化の視覚化。
- ③他の棚田地区と連携。

平成29年度

棚田再生・活用の試行について、繰り返し検証を行う。景観をアピールするための視覚的な表現の提案。ロゴマーク、スタッフTシャツ、法被など活動のためのユニフォームやチラシ等のデザインを提案する。若者と農業を考えるシンポジウムを実施する。

- ①棚田再生・活用の試行について繰り返し検証。
- ②景観をアピールするための視覚的表現の提案。ロゴマーク、スタッフTシャツ、法被など。
- ③若者との農業を考えるシンポジウムの実施。

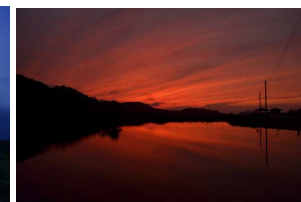
活動状況①

<平成27年度>

- ①長門市油谷景観調査および農業文化調査 現地調査2回、文献調査
- ②「秋の収穫祭&シンポジウム2015」の開催(2015.09.23)
- ③第3回 宇津賀地区ふるさと祭の見学およびヒアリング調査(2015.11.22)
- ④他の地区における棚田再生の事例調査 文献、書籍、WEB検索等
白米の千枚田(石川県)、土谷棚田(長崎県)、美山市上山(岡山県)等



平成27年11月秋の漁火
写真：兼行太一郎(写真家)



平成27年11月ため池百選



2009年 東後畑「楽踊り」
写真：長門市油谷支所

活動状況②

②-1 秋の”収穫祭“について

日時：2015年9月23日(祝・水) 11時～11時45分
場所：長門市油谷後畑の棚田(旧市立宇津賀保育園近く)
参加者：東後畑営農組合、宇津賀地区まちづくり協議会
安倍昭恵(内閣総理大臣安倍晋三夫人)
長門市大西倉雄市長、山口県立大津緑洋高校日置校舎生徒
山口県立大学他 総数100名
進行：長門市経済観光部農林課
実施状況：鎌による稲刈り～ハゼ掛けの作業を地域の方ご指導のもと行い、若い世代と共に農作業を通して交流することができた。
モンペッコとテーマTシャツを着て作業を行うことで、連帯感が生まれた。



写真：長門市



写真：山口県立大学 荒木麻耶

活動状況③

②-2 ”シンポジウム 2015“ について

日時：2015年9月23日(祝・水) 開場:13:00 開演:13:30
会場：ラポールゆや 大ホール
主な内容：鼓波会による和太鼓披露
油谷×山口県立大学企画デザイン研究室によるプレゼンテーション
シンポジウム「日本一美しい油谷の棚田創生と若者による農業の未来Vol. II」
パネラー：安倍昭恵(安倍晋三内閣総理大臣夫人)
大西倉雄(長門市長)
三村建治(東後畑自治会長)
松浦奈津子(一般社団法人おんなたちの古民家代表) ※ビデオ参加
モデレーター：水谷由美子(山口県立大学国際文化学部長)
実施状況：約150人の聴衆が集まり、パネラーと共に棚田創生について考えることができた。
当日回収したアンケートには、75人の聴衆から意見が寄せられていた。



写真：長門市 鼓波会演奏



シンポジウム



企画デザイン研究室プレゼンテーション

取組の成果等

・地域の課題に対してどのような効果があったか

<成果>

- ・連帯感の創出
- ・モンペッコのアピール
- ・自然栽培米の6次産業化に向けた議論

・残された課題や今後の取り組み

<今後の課題>

今年度は、東後畑棚田周辺地区の景観等調査やシンポジウム開催等、情報収集を行った。
今後はこれらの調査結果と他地域での棚田再生の活動を参考に、地域と共同で実施できる活動を計画し試行したい。

活動参加者

地域での受入組織

宇津賀地区まちづくり協議会他

人数 10名

- ・今後の地域農業の方針が見えてきたように思う。宇津賀地区の農業をよい方向へ向けて行ってほしい。
- ・棚田米についてTPP対策、稲作改革の参考になった。
- ・若い世代にも農業に興味を持ってもらえる取り組み、モンペッコに大きな関心がわいた。
- ・宇津賀地区は昔から農業と漁業が盛んな地区である。今年のふるさと祭では初めて大漁旗を飾り、会場を賑わせた。今後も漁業地区との連携を図りたい。
- ・米作りをしているが後継者がいない。若い人が農業をやってくれると棚田景観も残すことができるだろう。
- ・貴布祢恵比寿神社において「楽踊り」を奉納した。子どもがいなくなり継続ができなくなったが、伝統行事が継承されることが望ましい。
- ・棚田再生には、牛の放牧を勧める。海に面した、穏やかでのんびりした環境が牛に良い影響を与え良質の肉となる。草を食べてくれるので休耕田対策にもなる。

支援大学等

山口県立大学企画デザイン研究室

人数 8名

- ・長門市には素晴らしい自然がありびっくりした。瀬戸内生まれなので、日本海の厳しい海が作り出した景色は新鮮に映った。
- ・棚田周辺は見所が多いが、表示が少なく道に迷うこともあるのではないかなと思う。デザイン性のある道標を統一感をもって設置すると良いと思う。
- ・昔からの祭りの歴史を教えてもらった。伝統行事を守っていかねばならないと思った。
- ・稲刈りは重労働で疲れたが、大勢で作業することから疲れも忘れて作業することができた。
- ・自然に囲まれた中での作業は、心身ともに健康になる感じがした。
- ・無農薬無肥料という自然栽培米に興味をもった。休耕田であることが強みにいかされている。そんなことがまだありそうな気がする。
- ・現地の方と打ち合わせを密にし、交流を深めたい。

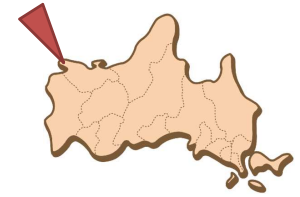
事業名：楊貴妃伝説を活用した 地域住民と留学生の交流に よる活性化支援事業

地域協議会名：楊貴妃の里体験交流協議会
活動期間(予定)：平成27年度～平成29年度

発表者：山口大学中国留学生学友会

地域の現状と課題

- 活動地域：長門市向津具半島



- 地域の概況

向津具半島は、人口約1,450人、高齢者人口割合約51%の過疎化の進む日本海に面した限界集落です。近年、地元住民や移住者による地域活動が活気を帯びてきていることが特徴的です。

- 地域の課題およびニーズ

向津具半島にある楊貴妃漂着伝説を地域資源としてとらえ、地域の若者と中国人留学生が共に活動することにより、地域外、しかも海外の目線から、地域の文化や歴史が評価されることで、住民の郷土意識が高揚するとともに、開かれた地域として活性化するための素地が高まることを期待しています。

取組の概要

到達目標

向津具半島を学生や留学生に開かれた地域として楽しめるプログラムの開発と実施および情報発信を行います。

地域協議会の活動内容(予定)

- ① プログラムおよび食の体験メニュー開発のための現地調査及び地域住民との交流会議
- ② 開発したプログラムおよび食の体験メニューのイベントでの試行

大学等の支援内容(予定)

向津具半島で語り継がれる楊貴妃伝説をテーマにした国際的
地域交流プログラムおよび食体験メ
ニューの開発・提供

平成
27
年度

平成
28
年度

平成
29
年度

- ① 1年目に開発したプログラムを活用した観光滞在ツアーのプロトタイプ開発
- ② プロトタイプツアーの試行
- ③ 開発した料理メニューのイベントでの販売支援

楊貴妃伝説をテーマにした国際的
地域交流プログラムや食の体験
メニューを使ったモニターツ
アーの開発

- ① 開発したプログラムやツアーの改良点を反映させた本番設計
- ② WEBを活用した効果的な情報発信の設計構築・観光客誘致手法の開発

開発したプログラムおよびツア
ーのブラッシュアップと中国語による
情報発信

活動状況①

9月14-15日に、プログラムおよび食の体験メニュー開発のための現地調査及び地域住民とのワークショップを行いました。また、10月の「楊貴妃炎の祭典」で発表するプログラムを長門市ケーブルテレビで広報するため、収録を行いました。



楊貴妃の里の現地調査



中国の郷土料理を食の体験メニューとして検討



地元の若者とのプログラム開発のための協議



地域おこし協力隊とも連携した広報展開



「ほっちゃテレビ」に放送するために収録



番組スタッフの方との打ち合わせ

活動状況②

10月11日に向津具半島のお祭り「楊貴妃炎の祭典」で開発したプログラムを発表しました。また、食の体験メニューとして水餃子の出展を行いました。



長門市長のご挨拶

中国の色々な時代の演奏と舞

中国の色々な時代の演奏と舞

中国の色々な時代の演奏と舞

中国の色々な時代の演奏と舞

地域の方から表彰状を授与

水餃子の食体験コーナー

笠本県議会議員からの激励

地域の方VS留学生対抗の親睦バトル

伝統神事の火渡りにも参加

もちまきの体験

中国留学生学友会で記念撮影

取組の成果等

● 地域の課題に対してどのような効果があったか

- ① 楊貴妃漂着伝説を日本と中国の若者をつなぐ地域資源として用いたプログラム開発により、交流を活発にすることができました。
- ② 身近なテーマである「食」を用いた交流により、お互いの関心を高め合うことに成功しました。

● 残された課題や今後の取組

- ① 今年度は、大きな行事の中でプログラムを発表するスタイルで大掛かりになりがちであるため、今後はモニターツアー等のプログラム化を検討したいと思います。
- ② 食の体験メニューは、内容の改善やバリエーションの充実などが今後の課題です。

活動状況③

12月16日、山口大学中国留学生学友会の幹部交代に伴い、旧幹部が地域住民に新幹部を紹介し、お互いの活動発表を行いました。また、今年度の協議会の活動の反省会と来年度に向けた意見交換を行いました。



山口大学中国留学生学友会の発表

学友会の活動について地域の若者に紹介

学友会の課題について地域の若者と意見交換

地域の若者からの向津具半島での活動紹介

意見交換のまとめを地域の若者が発表

地域の若者と留学生みんなで写真撮影

活動参加者

地域での受入組織

フューチャー長門と地域住民

人数30名&∞

支援大学等

山口大学中国留学生学友会

人数50名

食の体験はアジアに行った気分になってとても嬉しい！

楊貴妃の里で本場の中国の方と楽しく過ごせてハッピー！



元気をもらった。ありがとう！これからも遊びに来てね！

留学生が困っている事があったら力になりたい！

日本のお祭りが経験できて貴重な経験になった！

自分たちのアイデアが地域の役に立つことが嬉しい！



みなさんに中国のこともっと知ってもらいたい！

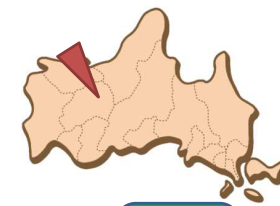
中国だけでなく留学生全体の活動を盛り上げたい！

事業名：大学生等による地域づくり支援
地域協議会名：赤郷地区振興会
活動期間：平成25年度～平成27年度

発表者：山口県立農業大学校

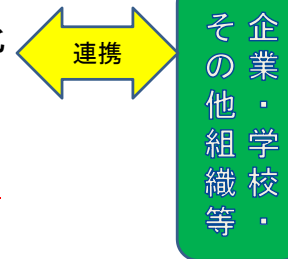
地域の現状と課題

- 活動地域：美祢市美東町赤郷地区
- 地域の概況
世帯数：348戸 人口827人 16集落
高齢化率 47% (H27年12月末現在)



●地域の課題およびニーズ

- ① 「地域経営の事務局機能」の強化
- ② 域外交流の充実
- ③ 域内交流・連携の充実化



◎課題：地域内活動の住民共有化が
徹底されていない

「振興会だより」、「赤郷公民館だより」等で告知

取組の概要

到達目標

次世代へと資源をつなぐ仕組みづくりの構築

地域協議会の活動内容

大学等の支援内容

平成25年度
 ○地域資源の保全・活用
 ①ドリーネ耕作
 ②赤間関街道ウォーク
 ③秋吉台山焼き火道づくり

○ドリーネ畑の整備(収穫・ほ場の片づけ、次作に向けた準備)
 ○火道づくり(草刈り)

平成26年度
 ○地域資源の保全・活用
 ①ドリーネ耕作
 ②赤間関街道ウォーク
 ③秋吉台山焼き火道づくり

○ドリーネ畑周辺・自然歩道沿い草刈り
 ○赤間関街道草刈り
 ○赤間関街道WALK運営支援
 ○山焼き火道づくり(草刈り)

平成27年度
 ○地域資源の保全・活用
 ①ドリーネ耕作
 ②赤めぐりWALK(桂木山登山12km)
 ③秋吉台山焼き火道づくり

○ドリーネ畑周辺・自然歩道沿い草刈り
 ○赤めぐりWALK運営支援
 ○山焼き火道づくり(草刈り)

活動状況①

企業・大学との連携による保全活動①



ドリーネ畑周辺の草刈り(H25)



野菜の収穫の支援(H25)

活動状況②

企業・大学との連携による 保全活動②



活動状況②

都市住民参加行事への協力支援



赤めぐりWALK(桂木山登山12km) H27. 11. 22(日)

取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
他地域からの若者たちによる連携活動

一緒に活動する地域住民の増加

3年間の
成果

- 残された課題や今後の取組

少子・高齢化の進展⇒連携活動は益々重要
企業との連携活動は今後も継続可能(経費負担)
大学等との連携活動は、困難? ⇒ **早急な検討!**

活動参加者

地域での受入組織

赤郷地区振興会

人数10名

支援大学等

山口県立農業大学校(2年生)

H27年 29名

○ 会長: 中屋 弘幸

○ 副会長: 田辺 敏雄

【地域の声】

やっぱ、よう動くの～

他役員 8名

若いもんと一緒にやるのもええの～

【役員感想】

「また来たよ！何かすることない？」「よ～来てくれたの～」
こんな会話ができる縁にしたいですね

火道づくりでの草刈りの大変さがわかった。人と人の繋がりが大切なことがわかった。

想像を超えた草の量だった。草というより木を切っているような感じで、岩も多く大変だった。

桂木山登山イベントでは小さい子供の参加も多く、事故や怪我をさせないように気を使った。

今回の活動に参加して、人とのコミュニケーションを大切にするのは人と人の繋がりを広げてくれることが分かった。

事業名：東荷地区夢プラン策定基礎調査プロジェクト

地域協議会名：東荷地区コミュニティ協議会
活動期間：平成27年度

発表者：山口県立大学 加登田ゼミ+

地域の現状と課題

- 活動地域： 光市東荷地区
- 地域の概況

人口751人、世帯数318世帯
高齢化率 41.28%

8つの集落(自治会)で構成
熊毛郡のほぼ中央に位置し、
四方を山に囲まれた高台の
丘陵で全般に肥沃な土地を
有する農山村。

- 地域の課題およびニーズ

急激な人口減少、少子高齢化。
住民の声を反映した「夢プランの
策定を支援して欲しい。



取組の概要

到達目標

光市東荷地区における夢プラン策定に当たり、住民アンケート調査を元に、集落インタビュー調査を実施して、きめ細かい住民ニーズを把握する。

地域協議会の活動内容(予定)

東荷地区住民アンケート調査の実施
東荷地区集落インタビュー調査の実施
夢プラン策定委員会の立ち上げ

大学等の支援内容(予定)

東荷地区集落インタビュー調査
調査結果に基づき、夢プラン策定に
向けての意見交換会への参加

東荷地区夢プラン策定作業

未定

平成二七年度

平成二八年度

活動状況①

第1回打ち合わせ会で、顔会わせと、地域概況の把握を行った。

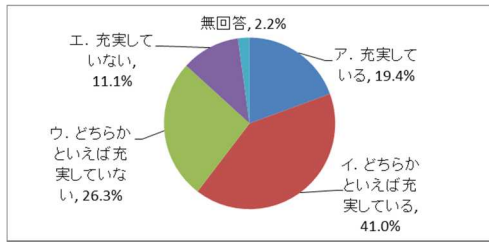
東荷地区の“今”は元気だが「どのくらい持つか…」が緊急の課題だ。

最初はお互いに少し緊張気味であったが、班に分かれて戸別訪問が始まると、すぐ打ち解けてきた。

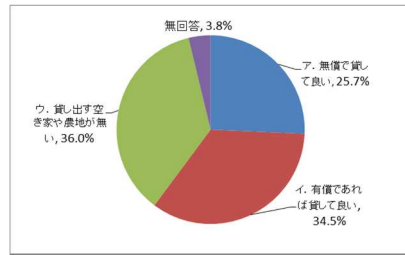


活動状況② (アンケート調査)

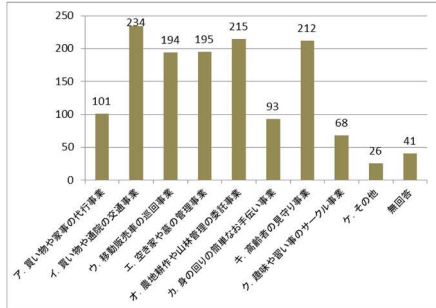
現在の暮らしは充実していますか？



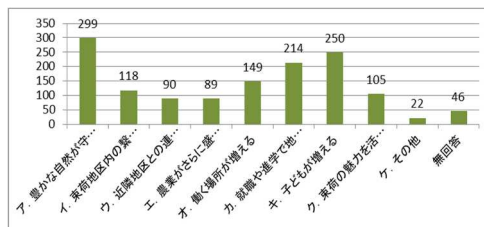
空き家を貸してもよいですか？



暮らしをよくするためにはどんな事業が必要？



10年先の東荷にどのような理想がある？



活動状況③ (インタビュー調査)

調査対象

年齢階層	人数
70歳代	2名
60歳代	10名
50歳代	2名
40歳代	1名
30歳代	3名
20歳代	1名
不詳	1名
合計	20名

イノシシの被害が酷くてね...
猿も来ますよ。

車に乗れなくなったらアウトかな。
坂がきついから、ぐるりんバスの停留所に行くのも辛いね...
子ども達は帰って来んね。



東荷で生まれ育った方の聞き取り



新規就農移住者の若い世代への聞き取り

「〇〇さん」というと、皆分かる連帯・繋がりがあがる地域です。移住者が入っていくに当たって、特に不安は無かったけど、やっぱり、慣れるのに時間はかかる。複式の小学校もうちの子には合ってると思います。
何とか出来るようになりたいと、希望ばかりで頑張っています。

取組の成果等

● 地域の課題に対してどのような効果があったか

○地域全体を数量的に把握したアンケート調査の結果を、より具体的な証言から掘り下げることができた。

○しがらみのない外部の若い学生の視点から、意見交換ができた。

○学生と同行調査して、地元役員が元気づいた。

● 残された課題や今後の取組

○課題の抽出・分析から、計画策定へ纏めていく作業が必要である。

活動参加者

地域での受入組織

東荷地区夢プラン策定基礎調査プロジェクト 人数 5名

- 弘田 之文 (東荷公民館長)
- 河野 千之 (東荷公民館運営委員長)
- 吉原 寛 (東荷公民館総務部長)
- 林 郁哉 (東荷地区連合自治会会長)
- 小枝 淳志 (光市地域づくり推進課)

支援大学等

山口県立大学 人数14名

- | | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| 3学年 | 橋本佳奈 | 井上千明 | 平田まり |
| | 黒木陽子 | 小柳芽衣 | 山本 夢 |
| | 竹松 侃 | 水上真裕子 | 浦田さや香 |
| | 小城穂波 | 岡本晴香 | |
| 引率 | 加登田恵子 | 吉田昇司 | |

若者と話す機会って元気が出て大切だね。

東荷の良さを自慢する人がたくさんいたね。

子や孫の代の東荷地区を心配する声が止まないね。

今、動いて地区の思いを同じ方向に向かせたいね。

東荷の住民同士のつながりや自然豊かさを誇りにしておられるね

行動を起こしたくてもひとりでは何も出来ないと思っている人もいたね

出産子育ての施策をかなり思い切った方がいいのでは？

鳥獣被害対策も地域全体でやらないと効果がないのでは？

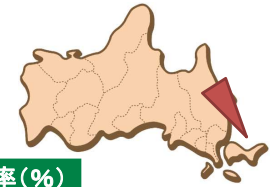
事業名：柱島群島地域活性化事業

地域協議会名：柱島群島盛り上げ隊
活動期間(予定)：平成26年度～平成28年度

発表者：法政大学現代福祉学部 関司ゼミナール

地域の現状と課題

- 活動地域：岩国市柱島群島地域
- 地域の概況(平成28年1月1日現在)
柱島、端島、黒島の3島で構成



島名	面積(km ²)	人口(人)	高齢化率(%)
柱島	3.12	161	82.0
端島	0.67	28	82.1
黒島	0.54	25	92.0
計	4.33	214	83.2

離島航路(1日3～4往復)で約60分
(※岩国港から各島まで約22～26km)

- 地域の課題およびニーズ
高齢化等による地域づくりの担い手不足→人材確保
交流・定住促進を図るためのアイデア創出

取組の概要

到達目標

- 交流人口の増大(H25:5,600人 → H28:6,000人)
- 地域おこし協力隊員の定住・定着(1名)
- IJU(移住)応援団登録者の増加(H25:3人 → H28:5人)

地域協議会の活動内容(予定)

- 平成26年度
- 島民と学生との意見交換会
 - 3島での現地フィールドワーク
 - 水産業(主要産業)、周辺物販施設・海運会社(モノ・ヒトの動き)の現状把握
 - 農業祭への出店

- 平成27年度
- 活動に向けた島民の機運醸成、世帯・ヒトの状況把握
 - 島外との交流を促進する手段の検討
 - 島の産品を活用できる手段の検討

- 平成28年度
- 島外との新たな交流促進手段の実現
 - 島の産品活用の試行
 - 地域の将来計画(夢プラン)づくり

大学等の支援内容(予定)

- 3島の住民・出身者への聞き取り調査
- 島あるき・地域資源探し
- 漁師さんとの水産業ヒアリング・作業体験
- 島の農作物の販路調査

- 勉強会、集落点検活動の実施
- 島外につながる主体(出身者・産品購入者など)へのヒアリング
- 産品活用の事例調査・情報提供

- 新たな交流手段・産品活用のトライアル・モニター調査
- 夢プラン作成支援(WS開催)

活動状況①

今年度の訪問活動

<テーマ> 島PRのFacebookの作成と学園祭出店に向けた活動

- 7月11、12日：FB用島内写真撮影、島民の方々への聞き取り
- 9月14、15日：前回の活動の継続、学園祭メニューの試作
- 1月16、17日：FB引き渡し、今年度活動の成果報告

→成果：島民の方々に聞き取り調査を行うことによって、今後島の情報発信源となるFacebookの土台の情報が整った。また、学園祭で出店するメニューの考案にあたり、島の魅力ある産物への期待や活用方法があると感じた。



活動状況②

法政大学多摩キャンパス学園祭

[試作品づくり](9月14日～15日)

柱島の産物である、**ひじき**、**じゃがいも**を活用して学園祭で出品する試作品を作った。
島民の方々の協力のもと、様々な食材を使い試行錯誤した結果**ひじきコロッケ**に決定。
島の婦人会の皆さんからアドバイスをもらい、サイズや提供方法(コップで持ち)を工夫。

[学園祭](10月17日)

前日:ひじきコロッケの仕込み、屋台の準備。店舗でも柱島の位置や島の写真を貼った。
当日:合宿で試作したひじきコロッケの販売。幅広い世代に好評を博した。
販売途中、柱島出身の子ども連れの男性が偶然にも来店され交流することができた。
ひじきコロッケは好評で約150個を売り上げ、柱島の産物を大いにPRできた。



活動状況③

島の情報発信の方法を検討し、実践へ。

〔①今年度の到達点〕

・柱島群島の知名度の低さを、これまでの活動で痛感。
→まず、多くのひとの目に留まる広報紙の作成から。
→島の人たち自ら発信しやすく、利用者の多い Facebookをまずゼミ生が作成。
→今後、島の動きや**ボランティアの募集情報**などを、島の皆さんとゼミ生と一緒に情報発信していく。

〔②予想される成果〕

- ・リアルタイムで島の様子を発信できる。
- ・島にゆかりのある人、岩国市内の人々からFacebookの閲覧が増える。
- ・シェア機能によって県内外に情報が発信される。
- ・島外から、清掃作業などの参加を得て人手不足の解消に繋がる。
- ・柱島群島への観光客が増加する。



柱島群島Facebook QRコード

取組の成果等

● 地域の課題に対してどのような効果があったか

- ▼私たち学生との意見交換を重ねることで、島民の活動意識があがった。
- ▼学園祭で初めて柱島群島の産物を使用した商品を販売したことによって、島の**魅力を発信**することができた。
- ▼島の情報発信ツール(Facebook)と、広報紙の発行を通して、島の**認知度向上**、**観光客の増加**、**ボランティアの募集等の広報活動**に貢献するきっかけができた。

● 残された課題や今後の取組

- ▼Facebookと広報紙を活用した**島の情報発信**を軌道に乗せ、持続できるものにしていく為に、島民による運営体制を整えていく。
- ▼**島内ではFacebookを利用できない高齢者が圧倒的に多く、その人たちに向けた情報共有の手段を検討する。**
- ▼島の魅力をさらにPRできるイベントを企画し、群島の魅力を発信していく。
- ▼総じて、これまでの取り組みが、事業終了後も島民を中心に継続できるよう、3年目の活動を進めたい。
- ▼Facebookをより円滑に活用するためには、**群島全体の通信環境の向上が必須。**

活動参加者

地域での受入組織

島づくり推進協議会など 人数40名

- 島づくり推進協議会 (森岡信孝さん、木田昭一さん他)
- 柱島地区自治会連合会(笹川 清さん他)
- 柱島漁業協同組合(堀岡孝二さん他)
- 柱島消防団(嶋岡文心さん他)
- 婦人会 ○柱島青年4Hクラブ の皆さん

情報発信する
きっかけができた!

学生と一緒に
何かアクション
を起こしたい!

Facebookを自分
たちで管理
できるか不安。

島内で情報発信
に携わる体制
作りが必要。

支援大学等

法政大学 人数11名

- <准教授> 関司直也
- <3年生> 徳永将健/伊藤直人/近藤観太/柏 佳子/岩崎大輝/須川雅也/山口雄介/永松由衣/大浪千穂/山田康雅

Facebookに関
心を持ってくれ
て良かった。

学園祭で県外
の人にも群島
のアピールが
できた!

島民が主体に
なるFacebook
運営体制を整
えたい...

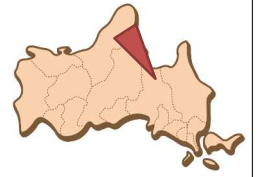
群島に来てくれ
るための施策
が必要。

事業名：須金リボーンプロジェクト
地域協議会名：須金リボーンプロジェクト協議会
活動期間(予定)：平成26年度～平成28年度

発表者：明治大学 農学部 地域環境計画研究室

地域の現状と課題

- 活動地域：周南市須金地区
- 地域の概況
 - ✓ 周南市北東部に位置する中山間地域
 - ✓ 面積：48.75km² 自治会数：16
 - ✓ 人口：394人うち70歳以上208人(H27.8.31)
 - ✓ 主要産業：梨・ブドウの果樹園



13の農園が須金フルーツランドを形成

- 地域の課題およびニーズ
 - ①若者の定住促進
 - ②住民が安心して快適に暮らせる生活環境の確保
 - ③須金地区に合った鳥獣被害対策の考案

取組の概要

到達目標

人と人とのつながりを創り地域の再生を目指す

地域協議会の活動内容(予定)

- ✓ 今後の活動方針の検討
- ✓ 効果的な鳥獣害対策の検討
- ✓ 新たな生活交通の検討

大学等の支援内容(予定)

- ✓ 集落点検と地区の課題抽出
- ✓ 須金地区の猿害とその対策の現状把握
- ✓ 中高生の通学実態の聞き取り調査

平成26年度

平成27年度

平成28年度

- ✓ 移住者の受入に必要な取組み等検討
- ✓ 効果的な鳥獣害対策の検討
- ✓ 新たな生活交通の検討

- ✓ 地域内の空き家調査、移住者への聞き取り調査
- ✓ 須金地区に適した猿害対策の提案、実現に向けたパンフレット作成
- ✓ 須金地区の生活実態の調査

- ✓ 移住者の受入に必要な取組み実施
- ✓ 新たな機能・運営体制の導入
- ✓ 新たな生活交通の導入・検討

- ✓ 空き家情報データベースの作成支援
- ✓ 住民の買い物意識分析、店舗についての課題抽出
- ✓ 実証運行に向けた準備・助言

活動状況① 集落点検

実施日：2015年6月6日～8日



活動状況②猿害対策に関する調査

・調査目的

須金地区のような高齢化が進行し、多数の自治会に分かれている地域で実施可能な集落ぐるみの猿害対策を明らかにする

・調査内容

1. 須金地区での猿害の現状把握
2. 集落ぐるみの対策の実施可能性検討



・調査結果

1. 70代以下の住民が中心となり、各自治会を一つの集団とすれば集落ぐるみの対策を実施できる
2. 個人での対策は限界を迎えているが、集落ぐるみの対策ならば必要な労力の程度に関わらず実施できる

取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
 - ✓【鳥獣害対策】鳥獣害パンフレットの作成・配布
 - ✓【移住者の受入】里の案内人相互間における情報共有の場創出
- 残された課題や今後の取組
 - 【移住者の受入】
 - ✓ 空き家情報のデータベース化
 - ✓ 空き家の掘り起こし活動支援
 - ✓ 新規移住者確保に向けた取組案の検討

活動状況③地域内の空き家に関する調査

・調査目的

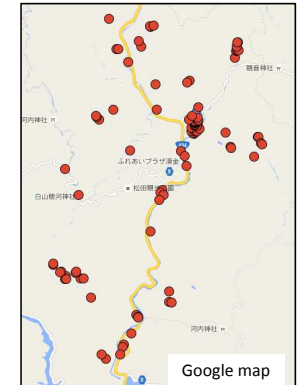
移住者の受け皿となる空き家とそれを取り巻く現状を把握する

・調査内容

1. 須金地区内の空き家の位置、状況把握
2. 空き家の掘り起こし活動状況把握

・調査結果

1. 空き家の現状
 - ・ 空き家数: 94件、地区全体に分布
 - ・ 相続問題や荒廃で空き家バンクに登録されない物件がある
2. 空き家掘り起こし活動の現状
 - ・ 地域の空き家活用の考えと、空き家持ち主の考えが合わない
 - ・ 移住者受け入れ側で空き家情報が共有できていない
 - 効果的な空き家の掘り起こしができていない



活動参加者

地域での受入組織

生きがいのある須金をつくる会 人数27名

- 内山 浩昭(生きがいのある須金をつくる会会長)
 - 福田 護(須金地区自治会連合会会長)
 - 高橋 勝己(須金ぶどう梨生産組合組合長)
 - 福田 幸恵(須金の里ひまわり会会長)
 - 須田 浩史(地域の若手・移住者)
- 今年度の取組として
- 農作物を荒らすサルやイノシシ等の実態調査
 - 実態調査から見えてきた獣害被害対策の提案
 - 須金住民の生活実態のアンケート調査
 - 生活実態から見た新たな交通のあり方の提案
 - 既に移住されている方への聞き取り調査
 - 移住を希望される方にどうやって須金を知ってもらうか、来てもらうかについての情報交換会の実施
- について、学生の皆さんに聞き取り調査やアンケート調査などを行っていただきました。皆さんが熱心に調査に取り組んでいただき、提案という形で須金へ還元していただいたことに感謝しています。
- 来年度は、提案いただいた内容をベースとして、生活交通の実証運行や移住者受け入れに向けた取組などが実施できるように、引き続き学生の皆さんと連携しながら取り組んでいきたいと考えています。

支援大学等

明治大学農学部 人数18名

- 教員: 服部俊宏
- PD: 齋藤朱未 包薩日娜
- 博士後期課程: 藤田紀之
- 博士前期課程: 平戸裕馬 原涉 山口貴弘
- 学部4年: 新井さつき 佐藤康平 白木絵理
- 中村憲晃 中村美沙樹
- 学部3年: 石部裕太 小澤優介 北原杜魚
- 清酒瑛里香 三浦朋美 吉村悠希
- ✓ 高齢化問題を具体的に知ることが出来た。職員の方の「今、現在あるものを生かす」という言葉が印象的だった。
 - ✓ 様々な活動を通して須金における現状と課題を学ぶことが出来た。東京在住の自分から見て須金の自然は大きな魅力であると感じた。
 - ✓ 須金で初めて「集落」のあたたかさに触れることができた。一方で多くの課題もあり、解決のためにも関係者全員で考えていくことが必要だと感じた。
 - ✓ 地域に子供や若者がいることで得られ「明るさ」が大切だと感じた。
 - ✓ 須金に行くのは初めてだったが、地域の方と交流して、都会にはない人とのつながりがあると感じた。